

教科等研究会（小・中学校特別支援教育Ⅱ部会）

令和5年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

子どもの姿から出発する「分かる・できる」「楽しい」授業づくり
～一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業づくりの工夫～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
6/9	57名	乙女小	8/3	甲佐中	講話 実践紹介	10/13	乙女小	自立活動の 授業づくり 情報交換	1/26	龍野小	授業研究会 情報交換

3 研究の概要

(1) 研究の内容

- 第1回：①今年度の活動、②研究組織編成、③町別協議
授業研究会は毎年1回、各町で持ち回る。今年度は甲佐町の担当。
- 第2回：①自立活動についての講話
講師：熊本県立菊池支援学校 宮崎亜紀 指導教諭
②実践の紹介（班別）
- 第3回：①自立活動の授業づくり
提案者：甲佐町立龍野小学校 奈須房子 教諭、鬼塚亜紀 教諭
②情報交換
- 第4回：①授業研究会
授業者：甲佐町立龍野小学校 奈須房子 教諭、鬼塚亜紀 教諭
助言者：南阿蘇村立南阿蘇西小学校 中村泉 指導教諭
②情報交換

(2) 成果と課題

① 成果

- ・年間を通して自立活動についての研修を行った。本研究会の会員は今年度初めて特別支援学級の担任になったという方も複数名いることから、第2回の研修で理論を学び、第3回の研修で授業作りを学び合い、第4回の授業研究会で授業を動画で視聴し協議をするという流れで学びを深めていくことができた。特に、研究授業では授業者の情熱溢れる取組から多くのことを学ぶことができ、授業研究会に参加していた先生方からも「今後の指導に生かしたい」と好評であった。
- ・第2回目の研修は知的障がい部会と合同で実施した。どちらの障がい種でも実践できる事例や指導案の様式及び留意点についての話等、多くのことを学ぶことができた。また、実践の紹介では、班別協議も異なる障がい種で交流したことで、幅広い視点から今後の指導支援に生かせる情報を交換することができた。

② 課題

- ・自立活動の授業をどのようにすればよいかという悩みをもつ会員が多かったことから、今年度も自立活動についての研修を行った。児童生徒の実態やニーズは様々であり、発達段階での課題も異なることから、小・中学校合同での実施のメリットデメリットを踏まえた研修のあり方を検討する必要がある。
- ・本部会はできるだけ多くの会員が参加できるように第3回目の研修期日は特別支援教育Ⅰ・Ⅲ部会と重ならないようにしたが、授業代替の調整が難しく参加ができない会員が複数名いた。各小中学校の行事がなく、且つ授業者や研修講師、助言者の都合の良い日を調整することが難しかった。

4 実践事例

(1) 授業研究会の概要

授業者：甲佐町立龍野小学校 奈須房子 教諭、鬼塚亜紀 教諭

自立活動の「感情コントロール」を題材として11月に実施した授業（録画）を視聴した。

視聴の前に、奈須教諭がどのようにして授業を組み立てたかを説明した。

① 授業の説明及び自評（奈須教諭、鬼塚教諭）

- ・今回の授業は「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」、宮崎亜紀先生の講話と助言、第3回研修会で紹介された「感情レンジャー」の実践と教材、武井恒先生の実践を元に組み立てていった。既存の教材をどのように子どもに提供するかにこだわって授業づくりを行った。
- ・パワーポイントや役割演技、板書計画や学習シートなど子どもが意欲的に活動できるように準備した。
- ・個別が有効な自立活動の内容もあるが、今回は集団で行ったことで、より学びが深まった。
- ・授業後、すぐに感情レンジャーの必殺技を使ってクールダウンする子どもたちの姿が見られた。また、交流学級の担任からもクールダウンが上手にできたことの報告を受けた。
- ・感情コントロールをただ学ぶのではなく、「感情レンジャー」というキャラクターを用いて行ったことで、感情が高ぶったときもマイナスに捉えることなくプラスに捉え、生活の中で生かすことができるようになった。

② 全体協議

- ・授業者が児童の実態を的確に把握し、綿密な指導計画をされており、授業の流れが良かった。
- ・授業者が児童の言動を見逃さず多くの場面での確に褒めていた。今までの関わりの良さが窺えた。
- ・交流教室、休み時間、家庭等の場面設定を行い、対処法を考えさせてはどうか。

③ 助言（中村指導教諭）

- ・奈須先生の最初の言葉「今日の感情」を気持ちメーターで確認されたことで、一人ひとりの感じ方は違うという他者理解にも繋がった。この積み重ねを続けることが大切。
- ・鬼塚先生の「イライラは誰にでもある。社会的に大丈夫な形で発散しよう」という言葉は良かった。イライラを我慢すると他者にイライラをぶつける等、形を変えてイライラは連鎖する。対処法を見つけたら、それをどこで、どんなふうにするのかのルールも決めておくことが大切。
- ・たくさんの教材を知ることは大切である。先生方の教材研究の時間短縮にもなる。
- ・振り返りの視点として「自分の必殺技を増やそう」という目標であれば、必殺技がいくつ増えたかが評価になる。自己評価を入れることも大切。

(2) 学習指導案

1 題材名 気持ちを言葉で伝えよう～きもちについて ふかめよう～「クールダウンの方法を知ろう」(本時)

2 児童生徒の実態と指導目標

※今回は、この題材に関する自立活動6区分の中から特に関係する3区分を示したものである。

児童名		健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	実態等						
	指導目標	【長期目標】					
		【短期目標】					
	指導内容						

*** 児童の個人情報のため省略**

3 題材について

(1) それぞれの児童生徒における題材の意義と指導目標等

児童名	題材の意義	題材における指導目標	ゴールでの期待する姿
* 児童の個人情報のため省略			

(2) 題材計画(5時間扱い 本時 第3時／三次は、個別のため、一人一時間)

過程	時間	学習活動	児童の指導内容
			児童氏名
一		自分の気持ちや感情について知ろう ～うれしい気持ち編～ ①表情カードを使い、いろいろな気持ちを確認する。 ②うれしい気持ちになるベスト3を出し合う。 ③うれしい気持ちの時の体の変化を考える。	* 児童の個人情報のため省略
		自分の気持ちや感情について知ろう ～イライラした気持ち編～ ①表情カードを使い、いろいろな気持ちを確認する。 ②イライラした気持ちになるベスト3を出し合う。 ③イライラした気持ちの時の体の変化を考える。	
二		クールダウンの方法を知ろう ①怒る気持ちの背景を確認する。 ②クールダウンの方法を知る。(感情レンジャーの必殺技) ③クールダウン(必殺技)を練習する。 ④自分に合う方法を見つける。	
三		こんな時、どうする?～イライラ編～ ①イライラする場面を提示する。 ②イライラした時の気持ちと、対処法を考える。 ③イライラした時の対処法を練習する。	
		こんな時、どうする?～不安編～ ①イライラしたり不安になったりする場面を提示する。 ②対処法を考える。 ③対処法を練習する。	
		こんな時、どうする?～勘違い編～ ①勘違いをして不安になる場面を提示する。 ②対処法を考える。 ③対処法を練習する。	
四		教室で使ってみよう ・交流学級や学校生活の中で、自分の気持ちを適切な言葉で伝えたりクールダウンができたりしたか振り返る。	

4 指導に当たっての留意点

- 児童が考えやすいように、学習の流れを示したり、絵を活用したりするなど、視覚的支援を行う。
- 児童が経験した内容を使って、動画を作成し、活用する。
- 児童が落ち着いて学習できるよう、学習環境づくりやあたたかい雰囲気づくりを行う。
- 一人一人に合わせた「こんな時、どうする?」の課題を設定する。
- 児童の自尊感情を高めるために、本題材だけでなく日頃から、「認め、ほめ、励ます」声掛けを行う。

5 展開案

		児童名	* 児童の個人 情報のため 省略	
		年間指導目標		
		本時にねらう姿		
本時の目標		感情レンジャーの得意技を知り、自分の必殺技をみつけよう		
過程	時刻	学習活動・指導上の留意事項	準備物	手立て
さぐる		1. あいさつをする。 ★安心して授業に参加できる雰囲気を作る。 2. 本時の学習の流れを確認する。 ★見通しが持てるよう、手順を示す。 3. 前時の振り返りをする。 4. 教師の困った時の対処法を聞き、感情レンジャーについて知る。 5. めあての確認をする。	学習の流れ 手順書	* 児童の個人 情報のため 省略
	感情レンジャーの得意技を知り、自分の必殺技をみつけよう			
ふかめる		6. 感情レンジャーの得意技を知る。～運動マン編～ ①運動マンのスライドを視聴する。 ②得意技を確認する。 ③得意技を練習する。 7. 感情レンジャーの得意技を知る。～リラックスマン編～ ①運動マンのスライドを視聴する。 ②得意技を確認する。 ③得意技を練習する。	パワー ポイント	
		8. 自分の感情レンジャーの必殺技を決める。 ①カードから、自分に合う必殺技を選ぶ。 ②自分の必殺技を紹介する。		
ふりかえる		9. 今日の学習を振り返る。 10. 次の活動を確認する。	ふりかえり シート	
	評価			
エピソード記録				